

---

第 39 回 神 戸 港 港 湾 審 議 会

議 事 録

---

第39回神戸港港湾審議会議事録

1. 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 平成23年10月28日(金) 午前15時開会  
(2) 場 所 神戸市役所1号館28階 第4・5委員会室

2. 出席委員の氏名

(1) 学識経験者

宮 下 國 生	原 潔
吉 川 和 広	川 島 毅
黒 田 勝 彦	今 西 珠 美
毛 海 千佳子	岩 井 珠 恵
細 川 明 子	丸 山 清 人

(2) 市会議員

田 路 裕 規	橋 本 健
沖 久 正 留	松 本 のり子
藤 川 泰 輔	松 本 しゅうじ

(3) 港湾関係者

長 田 庄太郎	
長谷川 陽 一	
工 藤 泰 三	(代理 秋 山 信 )
田 副 忠 亮	
須 藤 明 彦	
森 本 啓 久	(代理 飯 塚 敏 夫)
竹 口 信 和	
増 田 常 男	(代理 大 崎 昭 男)
吉 岡 幸 治	
犬 伏 泰 夫	

(4) 関係行政機関の職員

吉 本 知 之	(代理 金 谷 泰 幸)
上 総 周 平	(代理 小 野 憲 司)
樋 口 由 幸	(代理 桑 田 康 生)
和 田 昌 雄	(代理 田 中 広 司)
田 中 万 平	(代理 川 上 博 )

以上、出席委員31名 欠席委員8名

### 3. 議事の経過概要及びその結果

(1) 開 会 午前15時

(2) 委員の出席状況報告

委員総数39名中、出席委員31名であり、本会議は有効に成立していることを報告

(3) 委員の紹介

(4) 局長挨拶

(5) 議事録署名人指名

会長が議事録署名人として、細川明子委員と田副忠亮委員を指名

(6) 専門部会報告

黒田勝彦委員から平成22年11月9日に開催された第16回計画部会議決事項の報告及び、平成23年3月23日に開催された第17回計画部会議決事項の報告

(会議資料5 第16回計画部会審議事項(平成22年11月)の概要)

(会議資料5(1) 第17回計画部会審議事項(平成23年3月)の概要)

(会議資料6 神戸港港湾計画の軽易な変更について(諮問)(写)(第16回計画部会))

(会議資料6(1) 神戸港港湾計画書—軽易な変更—(平成22年11月))

(会議資料7 神戸港港湾計画の軽易な変更について(諮問)(写)(第17回計画部会))

(会議資料7(1) 神戸港港湾計画書—軽易な変更—(平成23年3月))

(会議資料8 臨港地区の変更について(諮問)(写)(第17回計画部会))

(会議資料8(1) 臨港地区の変更)

宮下國生委員から平成22年12月16日に開催された第30回環境整備負担金部会議決事項の報告

(会議資料9 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について(諮問)(写))

(会議資料9(1) 港湾環境整備負担金年度別徴収額一覧表)

(会議資料9(2) 神戸市港湾環境整備負担金条例・同施行規則)

(7) 審議会の公開・非公開について

公開することに決定

(8) 審議事項

「神戸港港湾計画の一部変更について」 田中計画課長から説明

(会議資料10 神戸港港湾計画の一部変更について(諮問)(写))

(会議資料10(1) 神戸港港湾計画書(案)—一部変更—)

(会議資料10(2) 神戸港港湾計画資料(案)—一部変更—)

[質疑等要旨]

(委員) 1970年代と比べてコンテナ取扱量はどうなっているのか。また、内航フィーダーや、ヨーロッパ、アジアなどの航路については当時と比べてどうか。

さらに、PC-18の整備費総額、PC-18への8千TEU級以上の入港隻数についてお聞きしたい。

(事務局) 神戸港における過去最大のコンテナ取扱個数は、年間約290万TEUであり、阪神淡路大震災で、取扱個数が大きく落ち込んだが、現在、約250万TEUまで伸びており、今年度は270万TEU、そしてできるだけ早期に300万TEUを目指したいと考えている。

神戸港が世界のランキングで上位にいた当時は、トランシップ貨物率が高かったが、現在は東アジア諸港の整備が進みトランシップ率が減少しており、ローカル貨物を中心に伸ばしているところである。

そして、PC-18の当初の計画事業費は約300億円で、現在は約260億円を執行している。

年間入港隻数は昨年6万総トン以上の船舶が38隻入港しており、欧州地中海航路に就航している。

(委員) 神戸市は国際競争力をどうやって伸ばそうとしているのか。

(事務局) 西日本から、年間で約100万TEUのローカル貨物が、釜山港等に海外フィーダーされており、このままでは、日本の国際競争力の低下を招くことになるという危機感のもと、国とともに取り組んでいるところである。

(委員) アジアに打ち勝っていくのではなく、神戸市の実態にあった方向で考えていただきたい。意見として述べておく。

新港第1突堤から第4突堤地区を再開発するにあたり、新たなものを全部持ってくるのではなく、歴史のある倉庫を残すなど考えていくべきではないか。

(事務局) 「港都神戸グランドデザイン」は、20年から30年先の将来像をにらむ息の長い構想である。したがって、現在の事業活動を尊重し、できるところから取り組んでいく考えである。

以上の審議の結果、1名の委員から原案反対の表意があり、採決を行った結果、賛成多数により原案を可決した。

#### (9) その他報告事項

田中計画課長より大阪湾圏域広域処理場整備基本計画の変更について説明

(会議資料11 大阪湾圏域広域処理場整備基本計画の変更について)

(会議資料11(1) 大阪湾圏域広域処理場整備基本計画(案))

(10) 閉会 午後16時8分

上記議事録は議事の内容を正確に記録したものであることを証明する。

平成 年 月 日

会長 吉川和広



委員 細川明子



委員 田副忠亮

